

## &lt;日本事業（長野・自然災害）&gt; 「長野県において台風19号の復興活動をしています」



ICAN 事務局長  
井川 定一

2019年10月12日、台風19号が日本全国で猛威を振るい、浸水や土砂災害、河川の氾濫を引き起こしました。1994年より25年間、中部地域の人々とともに活動してきたアイキャンは、長野県で救援物資の提供と家の泥出し等のボランティアコーディネート活動を行っています。

長野市松代では、清掃やゴミ出しの多くのボランティアさんが来てくださる中、地域の皆さんは受け入れ対応に苦労されていました。そこで、アイキャンでは、同地区内の公民館において、ボランティアや物品寄付、資機材のコーディネートを担うことになりました。バラバラになっていた住民への情報を一元化したり、物品リストを作成して管理できるようにしました。毎朝、各世帯のボランティアとゴミ出し用の軽トラックの必要量と必要な時間を確認し、9時頃から次々と到着するボランティアさんの受け入れ・作業の割り振り・活動説明を実施しました。また、公民館では1日を通して必要物品の管理と補充、夕方以降は情報整理や片付け、区

長や関係者への報告、翌日の準備・計画をしました。そして10月末には、長野市千曲川の決壊現場に近い穂保（ほやす）地区の災害ボランティアセンターが被災地区内に移転するにあたり、アイキャンがエリアマネージャーとして住民からのニーズの聞き取りとボランティアのコーディネートを担当することになりました。多いときで1日約1,500名が訪れるセンターのため、全体を管理し、少しでも多くの時間をボランティアしていただくことを心がけてきました。松代でも穂保でも、一番の課題は、「床下と壁の応急処置」です。浸水した家屋をそのまま放置するとカビが発生してしまうため、泥を出し、消毒し、一ヶ月以上乾燥させなければなりません。被害範囲が広いので、多くのボランティアさんにご協力いただいているものの、ボランティアの数が全然足りていません。さらに、冬には泥が凍ってしまうため、残された時間は後僅かとなっています。

## ある日のスケジュール

- 8:00 ニーズ調査
- 9:00 ボランティア受け入れ・調整
- 12:00 炊き出し準備
- 15:00 片付け・翌日準備
- 17:00 活動報告
- 18:00 炊き出し準備
- 19:00 地域の調整会議



アイキャンは、住民と外部ボランティアのバランスに配慮して、「地域力」が失われないように配慮して活動しています。また、取り残される方が出ないように、一人ひとりに積極的に声掛けを行い、何でも言ってもらえる関係を築いています。ボランティアや物資がたくさん集まっても、マネジメントする人がいなければ、作業は効率的に進みません。アイキャンでは、今後も一人一人のできることを集めて大きな力に変え、被災地の復興に貢献していきます。

フィリピン事業（マニラ・路上） 10月12日/マニラ(フィリピン)  
毎年恒例のバザーに今年も参加しました

アイキャンとフェアトレード生産者団体 SPNP が毎年参加しているマニラ日本人学校のバザーに、多くの小学生や保護者が訪れ、大盛況となりました。お揃いでヘアゴムを買った女の子2人が「早速つけてきた〜！」と見せにきてくれたり、5人組の男の子たちはお揃いの編みぐるみを買った後、「〇〇君にも買っていこう！」と、お友達の分まで買ってくれました。SPNPのお母さんたちもとても嬉しそうに、笑顔で接客をしていました。

ボランティア・寄付活動推進事業 10月/名古屋・大阪  
台風19号による被災地緊急救援のための街頭募金活動

アイキャンでは、台風19号の復興に対する街頭募金活動を名古屋と大阪で計8日間実施しました。28名のボランティアさんが参加し、460名以上の通行人の方々からご寄付をいただきました。今回のボランティアさんの中には、以前通りがけ

に募金してくださった方もいました。募金をお願いする側になったことで、「募金活動の大変さや新鮮さを感じられた。またお手伝いしたい！」と話してくれました。

フィリピン事業（マニラ・路上） 10月30日/マニラ(フィリピン)  
路上の子どもの多い地域でニーズ調査をしました

路上事業のニーズ調査の一環で、路上の子どもの多い地域の見回り活動を行い、子どもたちへ声かけ等を行いました。13歳の女の子は「路上で生活している私たちの様子を見に来てくれることに驚いた。雨が降るとどこへ行けばいいかわからない。」と話し、担当スタッフは、「地域を見回りその生活を知ること、子どもたちと信頼関係を築く上で非常に有効です。必要に応じて彼らにアドバイスをしたい。」と話しました。

能力強化事業（講演） 10月23日・30日/名古屋  
イエメン内戦とジブチの子どもたちについての講演

名古屋学院大学の学生40名と、名古屋市立北高等学校の生徒23名に対して、イエメン内戦及びアイキャンのジブチでの活動について講演を行いました。「シリアやイラクは目にすることが多いが、イエメンや国内難民を多く抱えている国はあまり知らなかったため、大変勉強になった。」や「ジブチの難民キャンプにある子どもの広場の運営を難民自身がやっているということにとっても衝撃を受けた。」等の感想が聞かれました。